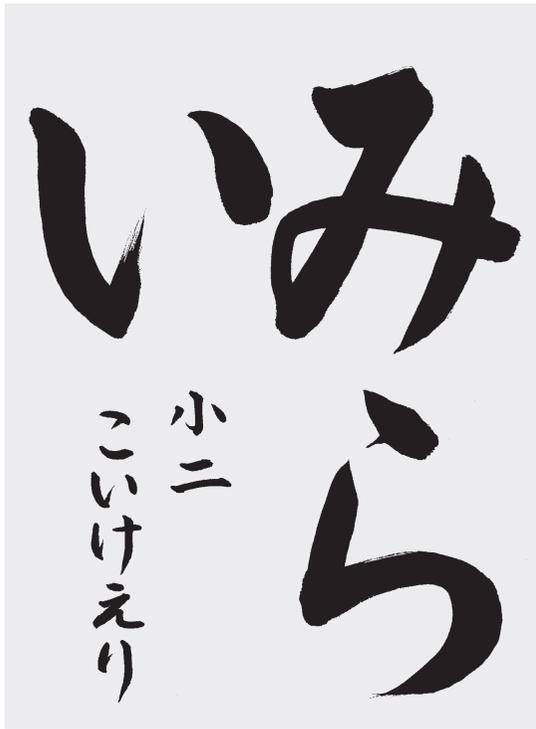


〔6月7日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。
(幼・小1の方は、学年を書かなくてもよい。)

小学2年参考手本

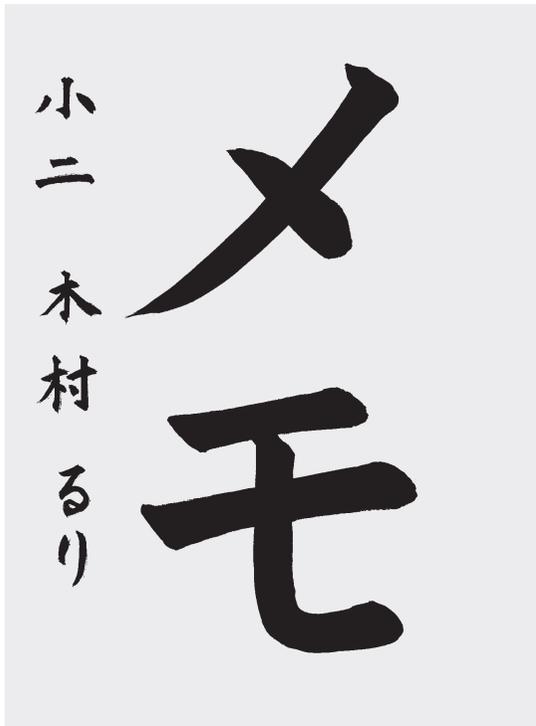


小池 蹊舟 先生

幼・小学1年参考手本



川島 舟錦 先生



白石 和楓 先生



大町 青蓮 先生

〔6月7日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学4年参考手本

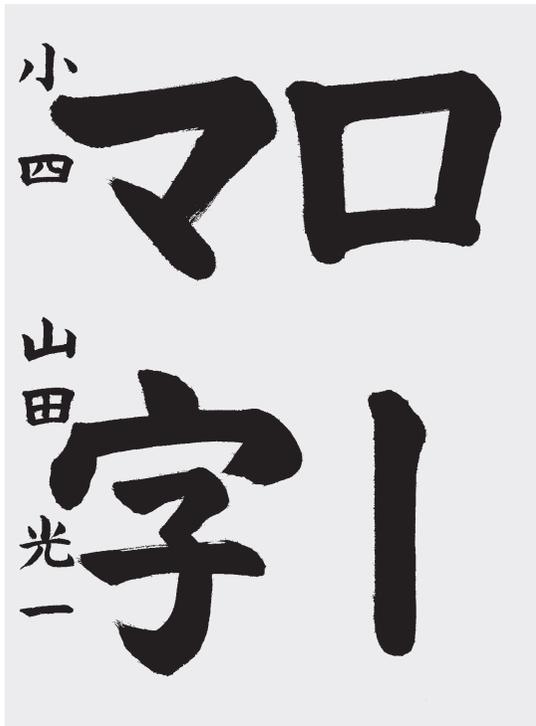


辻元大雲先生

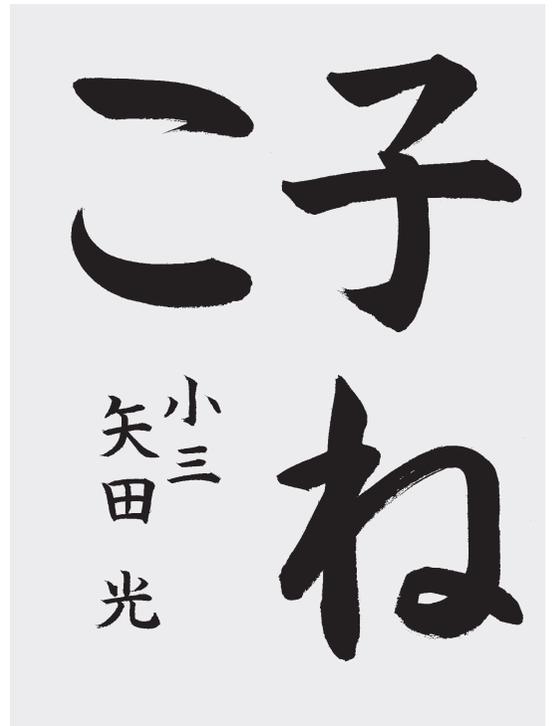
小学3年参考手本



工藤永翠先生



北村白琉先生



大平邑峰先生

〔6月7日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学6年参考手本



広瀬舟雲先生

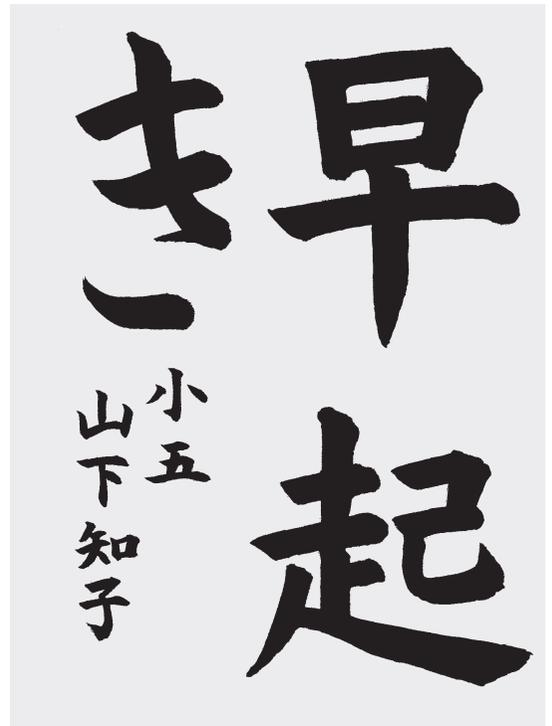
小学5年参考手本



名越蒼竹先生



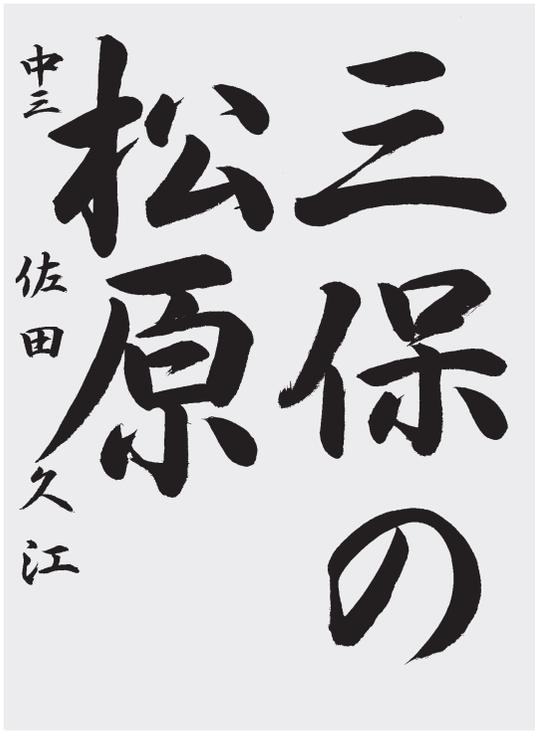
種谷萬城先生



片岡豪峰先生

〔6月7日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

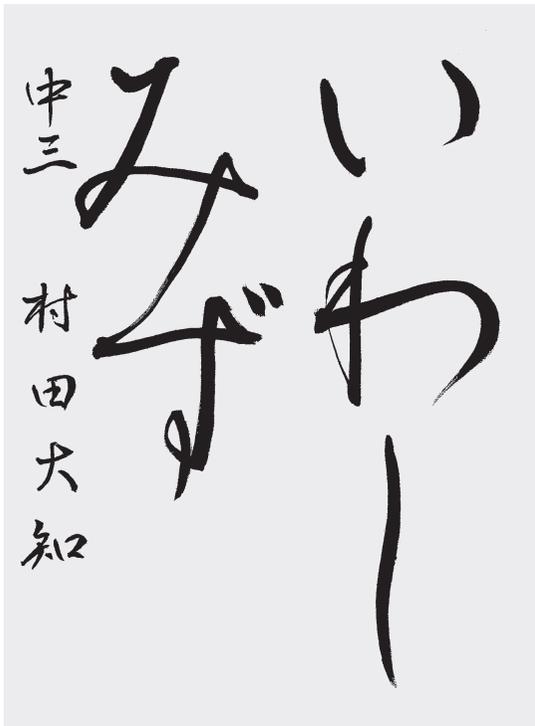
中学全学年参考手本（中学生は、どの課題を書いてもかまいません。）



小竹石雲先生



川村美泉先生



石井明子先生



前田龍雲先生

毛筆参考手本解説(1)

1年

2年

か かわ かわ(明) かわ(ヨ) かわ(教)

た た(明) た(ヨ) た(教)

和 和(明) 和(ヨ) 和(教)

み むら みる(明) みる(ヨ) みる(教)

女 女(明) 女(ヨ) 女(教)

※カタカナの字源は漢字の点画を省略したもの

3年

小 小(明) 小(ヨ) 小(教)

子 子(明) 子(ヨ) 子(教)

川 川(明) 川(ヨ) 川(教)

ね ね(明) ね(ヨ) ね(教)

4年

学校 学校(明) 学校(ヨ) 学校(教)

字 字(明) 字(ヨ) 字(教)

5年

野原 野原(明) 野原(ヨ) 野原(教)

早 早起(明) 早起(ヨ) 早起(教)

き 早起(明) 早起(ヨ) 早起(教)

活字と手書き文字の違いに気をつけて書きましよう。
ゴシック体(ヨ)・明朝体(明)・教科書体(教)・HGP行書体(H)

2年

か かわ かわ(明) かわ(ヨ) かわ(教)

た た(明) た(ヨ) た(教)

和 和(明) 和(ヨ) 和(教)

み むら みる(明) みる(ヨ) みる(教)

女 女(明) 女(ヨ) 女(教)

※カタカナの字源は漢字の点画を省略したもの

小 小(明) 小(ヨ) 小(教)

子 子(明) 子(ヨ) 子(教)

川 川(明) 川(ヨ) 川(教)

ね ね(明) ね(ヨ) ね(教)

学校 学校(明) 学校(ヨ) 学校(教)

字 字(明) 字(ヨ) 字(教)

野原 野原(明) 野原(ヨ) 野原(教)

早 早起(明) 早起(ヨ) 早起(教)

き 早起(明) 早起(ヨ) 早起(教)

労働

止め 中心から
はらう

労働(明)
労働(ゴ)
労働(教)

新風

新風(明)
新風(ゴ)
新風(教)

三保の松原

三保の松原(H)

労働
労働
労働

新風
新風
新風

三保の松原
三保の松原
三保の松原

風立

風立ちぬ(明)
風立ちぬ(ゴ)
風立ちぬ(教)

許容
方向
方向
点

品行方正

品行方正(明)
品行方正(ゴ)
品行方正(教)

いわしみず

いわしみず(岩清水)
岩の間からわき出るきれいな水のこと

筆順

八凡凡風風風
一十立

字源
知知知知 奴奴奴奴

筆順

品行方正
品行方正
品行方正

つぎ返す

いわしみず
のびやかに

ひらがなの字源

(379)

「国語科書写の理論と実践」
全国大学書写書道教育学会編より転載

字源	字形
ず	寸 寸 寸 寸
み	美 美 美 美
し	之 之 之 之
わ	和 和 和 和
い	以 以 以 以

* 字源については、異字体から変遷したものに*印を付して()にその字体を記した。
* 字形は古筆から抽出した。上段には字源に近い草仮名を配し、中・下段にはその変遷過程等を配した。

連綿のない作品例

いわしみず

いわしみず(H)

〔6月7日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学6年

小学5年

支部名			
段・級			
学年	六		
名前	中島海人		
	け	切	古
	つ	な	典
	が	心	芸
	れ	の	能
	て	財	は
	い	産	人
	く	と	々
	。	し	の
		て	大
		受	

支部名			
段・級			
学年	五		
名前	竹山結菜		
	げ	ま	友
	て	る	達
	発	と	は
	言	、	、
	し	元	学
	ま	気	級
	し	に	会
	た	手	が
	。	を	始
		拳	

●生は中心より右側
 〈許容〉方向
 〈筆順〉一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

財
 〈筆順〉一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

『古典芸能』
 漢字の字形を正しく整えて書きましょう。

中心の拳
 拳
 拳
 拳

発
 発
 発

達
 達
 達

『友達』
 筆順にしたがって正しく整えて書きましょう。

これからの作品締切日と課題

令和5年7月号～12月号までの作品締切日と毛筆課題

中学生 (全学年共通)		小6	小5	小4	小3	小2	幼・小1	締切日	
星に願 いを	答案	祭典	一直線	元気	ペン	のぞみ	あ	7月9日	7月
くもの みね	用意周到	新記録	登山	外国	大きい	はやい	いま		
次代を 担う	自在	記念の日	開始	実行	友人	こおり	そ	8月6日	8月
<small>荒海や佐 渡に横た ふ天の川</small>	粉骨碎身	集中力	湖水	魚つり	石だん	へちま	もの		
夕映え の富士	名月	正倉院	朝食	林道	田んぼ	ひろば	る	9月7日	9月
もみじ がり	前代未聞	一心団体	飛ぶ	金メダル	秋	ねがい	つき		
馬耳東風	文徳(九成宮・臨書)	有名な人	家族	町村	方向	もみじ	え	10月6日	10月
<small>柿くえば鐘 がなるなり 法隆寺</small>		達成感	時計	安全	虫かご	月	よむ		
理路整然	臨海(九成宮・集字)	筆の里	風景	月光	見る	えがお	は	11月6日	11月
あらし 吹く		詩を書く	波の音	大切	竹やぶ	ダム	すみ		
晴耕雨読	曲水(蘭亭序・臨書)	海岸線	星ふる夜	千歩	広がり	つばさ	き	12月4日	12月
見聞を 広める		楽しい声	絵画	冬こもり	夕やけ	かもめ	ふゆ		

7月号の硬筆課題 ※硬筆課題は、翌月課題のみ掲載しております。

幼・小1

に	た
い	い
き	い
ま	く
ま	か
し	ん
た	

小2

小	広
さ	い
な	海
魚	に
た	く
ち	ら
	す

小3

小	町
を	た
作	ん
り	け
ま	ん
し	で
た	地
	図

小4

そ	夏
れ	休
な	み
で	に
は	は
、	、
お	家
元	族
気	み
で	

小5

を	「
書	わ
い	た
て	し
み	と
よ	友
う	達
。	」
	と

小6

て	は	文
ま	、	章
と	筆	を
め	者	要
る	の	約
こ	意	す
と	図	る
	に	場
	そ	合
	っ	

中学生

こ	現
と	代
が	は
で	ホ
き	ム
る	ペ
時	ー
代	ジ
と	を
な	作
っ	成
	し
	、
	誰
	で
	も
	世
	界
	中
	に
	情
	報
	を
	発
	信
	す

書写を知り 学び楽しむ



広瀬舟雲先生

講師の広瀬舟雲先生は、武蔵野大学教育学部教育学科・教授、全国大学書写書道教育学会副理事長、(公財)書道芸術院評議員です。著書に「刻された書と石の記憶」、共著に「国語科書写の理論と実践」などがあります。

第75回 身の回りの書・聖語板

よくお寺の入口などに、ありがたい言葉が和尚さん等の筆によって書かれ掲示されているのを見かけたことがあると思います。本学は仏教系の大学ですので、正門と北門の両方にこの掲示板があります。これを聖語板とよび、先人の名言・経典の一節・格言・和歌・歌詞など多岐にわたり、キャンパス内に入ろうとする者すべてをお迎えし、また帰ろうとする者を同所で見送る役目も担って立っています。ゆえにキャンパス内に入る者がこれを見た時、心が豊かになるようなものや、心にやさしく時には新しい気づきを促すようなものなどが、学院長など仏教学の先生方が撰文し、月替わりで掲示されています。本学武蔵野キャンパスの場合、門を入る時は内側に向かって、帰る時は門の所で「回れ右」をして(聖語板のある方向にむかって)一礼している生徒・学生・職員などの姿をよく見掛けます。実はこれは校門と聖語板を結ぶ直線上のその奥に位置する講堂の「お名号」に向かって敬意と、今日も無事に過ごせたことへの感謝の意を表しているのです。

現在の聖語板は、その周囲や脚部全体がしっかりとした銀色のアルミ製で、正面の扉には厚いガラスがはめ込まれ、ここから文字が揮毫されたパネルが見られるように作られた陳列ケースとなっています。そして美術館の野外展示のごとく夕方からはライトアップされます。その中に入れられた畳より大きな黒いプラスチック製パネルに、白い文字が揮毫されています。このパネルは取り外すことができ、ここに白いポ

スターカラーを用いて揮毫するのです。この聖語板に記されたことばは、毎月一日に新しい言葉となるのが慣習となっています。四月は毎年、文学部日本文学科の初代主任教授であった土岐善麿(昭和40年(80歳)から昭和57年(98歳)まで十八年間本学で教鞭をとられました)の「ここに学ぶとはじめて立ちし校庭の花の四月の初心忘るべからず」という短歌と決まっています。

私は、過去に六年間揮毫担当を務めたことがあります。今回久しぶりに三か月間ピンチヒッターとして、きちんと読めて、かつ見る人が元気になるような書をとら思いつつ揮毫しました。絵の具の濃さと線の太細・文字の配置に苦心しました。

中学三年生の書写では「身の回りの書」が扱われます。鑑賞するとともに作者の意図が感じられるようになってほしいと思います。(つづく)



第76回書道芸術院展

書道芸術院春華賞



「龍笛撃響」

大沼 樵峰



篆刻・刻字部
大沼 樵峰

第76回書道芸術院展において、栄えある「春華賞」をいただき、選出してくださいました先生方および関係の方々には厚く御礼申し上げます。

院展では「記念賞」を60回展と65回展、75回展の3回いただきました。前回記念賞をいただいた時、何となく、これが最後で一番上の賞なんだろうなと思っていました。それが何と、今回は春華賞です。予想だにしないことで後藤大峰先生から連絡をいただいた時は、何のことも理解できず、しばらくは地に足が着かない夢心地でした。その後冷静になってから、「篆刻・刻字部」から最初の春華賞受賞の意味と重さに思い至り、事の重大さに冷や汗が出てきました。

今後は、先達の作品に学びつつ、微力ながらも書道芸術院の発展と後進の育成にさらに尽力してまいります。

書道芸術院大賞



前衛書部
吉田 恵弦

この度、歴史と伝統を誇る第76回書道芸術院展において、栄誉ある「大賞」を賜り、驚きと感動で胸がいっぱいです。これも書道芸術院の諸先生、宮城野書人会、玄穹社の千葉蒼玄先生、紅雪先生、書友の皆様と

家族の支えのおかげと厚く御礼申し上げます。

振り返ってみますと、9歳から書道教室に通い、伊藤香寿先生、幸一先生に書の基礎を学び、社会人になってからは、長井四枝先生に前衛書の楽しさをご教授頂きました。現在は千葉蒼玄先生に前衛書の奥深さ等、多岐にわたるご指導を頂いております。

受賞作品「スパイラル」は墨色により静寂と躍動感を表現し、連鎖的な変化の中に奥行きと広がりのある造形を目指しました。

今後も古典に立脚し深めながら、書友と切磋琢磨して前衛書等の書芸術を極められるよう精進して参ります。

「スパイラル」

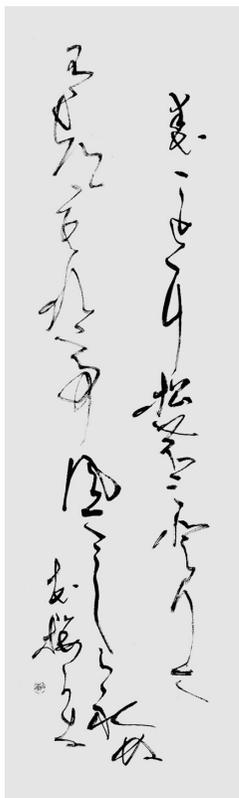


吉田 恵弦

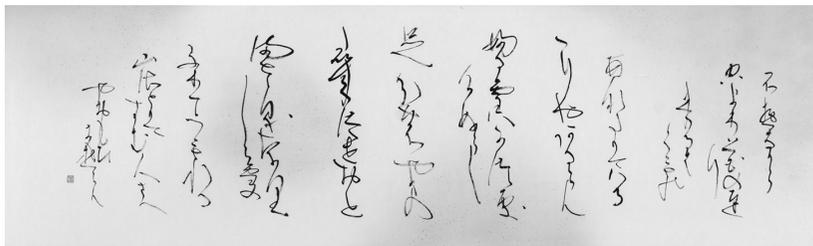
△編集部より▽
二月に全国学生書道展と一緒に行われた大人の展覧会上位作品です。

書道芸術院準大賞

「春ことば」

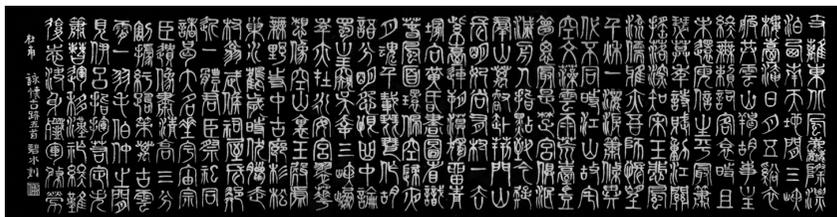


富澤 白雲



「冬ながら」

徳永美恵子



「詠懐古跡五首」

伊藤 碧水

「旅」



齋藤 杏邑



「開」

上岡まゆみ

令和

年

月

日

◇ 登録用紙 ◇

団体番号		支部名		先生名	
------	--	-----	--	-----	--

※氏名を楷書で記入してください。

※毎月 **15** 日までに登録された方は次月から出品可能です。

※退会の処理は年2回の昇級試験時に手続きをお願いいたします。

※3月に登録される時は、備考欄に新学年を記入してください。

※現在の学年を明記してください。



氏名	ふりがな	学年			備考
		幼	小	中	

◇ 部数変更届 ◇

現在		増減	合計
冊	月号から		冊
事務局使用欄			

※部数減の変更は、毎月15日までに

部数増の変更は、いつでも事務局へご連絡下さい。

FAX番号 (03) 3862-1957

※この用紙をコピーして繰り返しお使い下さい。

幼・1年

あ
やさきまい

いま
小一 みうらゆり

2年

みのぞ
小三 よだりこ

いはや
小二 林いくよ

3年

ペン
小三 山田花

いひき
小三 西本みらい

4年

元気
小四 田中友子

外国
小四 上田久代

5年

線一直
小五 山本健一

登山
小五 杉本陽

6年

祭典
六年 久永トム

新記
小六 小谷勉

中学

答案
中一 森健一

周到意
中二 佐藤幸本

星に願
い
中三 若森豊

もの
みね
中三 平田佳子

編集余録

○今月号より佐藤菜扇先生の後任として書道芸術学生版の編集を担当することになりました種谷悠輝です。この競書誌の前身である、「書の教室」は、昭和28年(1953年)12月に発行され、平成25年(2013年)4月に「書道芸術学生版」へと誌名を変更し、今月号で通巻834号となります。創刊から70年の歴史ある競書誌の編集に携われることをとても光栄に思います。これから多くの先生方のご協力を賜りながら、楽しく「書」を学んでいけるような競書誌を目指して頑張っていきたいと思えます。どうぞ宜しくお願いします。

○5月7日が春季昇級試験の締め切り日です。昇級試験は春と秋の年2回しかありません。昇級昇格のチャンスです！皆さんの力作を期待しております。
○今月号のお手本「三保の松原」は、静岡県三保半島の海岸沿いに約5kmにわたり、約3万本のマツが茂る松林で、富士山を望む景勝地です。富士山は、山そのものだけでなく、周りにある神社や湖、遺跡など信仰や芸術に関係のある文化財を合わせて世界遺産となつています。「三保の松原」は、この地からの美しい富士山の眺めが、富士山の文化的・芸術的価値の構成に欠くことのできないものとして、ユネスコの世界文化遺産「富士山」信仰の対象と芸術の源泉」の構成資産に登録されています。日本には「三保の松原」のような素晴らしい名勝・景勝地がたくさんあります。遠足や修学旅行などで全国各地を観光できるといいですね。

(悠輝)